

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

○令和5年度 第1回「健笑庵のぎ」運営推進会議

対象事業所名：(有) ケアサポートことぶき「健笑庵のぎ」

サービス種類：地域密着型通所介護事業所

開催日時：令和5年7月27日(木) 14時30分

開催場所：健笑庵のぎ 機能訓練室

出席者：7名

《内訳》

事業所(担当者)	3名	利用者	1名
利用者家族	1名	知見を有する者	1名
松江市職員	1名	地域代表者	(欠席)
包括支援センター	0名	その他	0名

【議事・議題】

1. 活動等の状況

①通所事業の現状

◆登録者数(令5月6月現在)：44名(うち男性6名、女性37名)

◆介護度別利用者数(サービス区分、介護度別の状況：令和5年6月現在)

総合事業通所サービス	該当者	3名	地域密着型通所介護事業	要介護1	21名
	要支援1	3名 (内、緩和型2名)		要介護2	6名
	要支援2	10名 (内、緩和型6名)		要介護3	0名
				要介護4	0名
制度外(実費)利用者		0名		要介護5	0名
				申請中	1名

◆各月利用者数

令和5年 1月	279名	令和5年 4月	334名
令和5年 2月	305名	令和5年 5月	354名
令和5年 3月	349名	令和5年 6月	341名

②活動報告

◆誕生会(誕生日の一番近い日に実施)

◆レクリエーション(季節に合わせたものや、要望に応えたもの)

- ・新年会 ・祈願絵馬作り ・福笑い ・書初め ・節分行事 ・豆まき
- ・曜日対抗鬼退治ゲーム ・八重垣神社参拝 ・吊るし雛作り ・桜の花見ドライブ
- ・曜日対抗ゴルフゲーム ・野球ゲーム ・母の日カーネーションプレゼント
- ・八雲鯉のぼり見学 ・梅シロップ作り ・曜日対抗衣替えゲーム

③日曜デイサービス(月1回、日曜日開催)

開催月	活動内容	参加人数
令和5年 1月	新年会1班(紙粘土で作るウサギの置物、紙相撲大会)	11名
2月	新年会2班(紙粘土で作るウサギの置物、紙相撲大会)	11名
3月	春を探しに行こう1班(大根島河津桜鑑賞)	13名
4月	春を探しに行こう2班(伯太町チューリップ鑑賞)	13名
5月	堀川遊覧船1班(堀川遊覧船で松江城下町見学)	9名
6月	堀川遊覧船2班(堀川遊覧船で松江城下町見学)	12名

④防災訓練及び活動

実施日	訓練および活動の内容	参加者数(職員)
令和5年1月	地震災害について/デイサービス利用中の災害を想定して	12名(3名)
2月	火災について/利用者の実体験	12名(5名)
3月	地震災害について/防災と防犯	11名(5名)

4月	火災について/火災発見時の初期行動	11名(3名)
5月	地震災害について/原子力発電所災害時の避難場所について	15名(4名)
6月	火災について/デイルームで火災発生を想定して	11名(4名)

⑤その他の活動

- ◆畑、花壇作り（年中行事）
- ◆歌唱活動、脳トレドリル、塗り絵、パズル、五目並べ（毎日）

2. 相談および苦情受付状況・事故発生報告（対象期間：令和5年1月～6月）

①＜相談・苦情事例＞

*この期間での受付はありません。

②＜事故事例 ※新型コロナウイルス感染関連も含む＞

*この期間での受付はありません。

③＜ヒヤリハット対象事例＞

この期間での該当はありません。

3. 研修会および勉強会

＜外部研修＞

この期間での実績はありません。

＜内部研修＞

実施日	研修会・勉強会内容	参加者
令和5年2月1日	ケース検討	4名
令和5年3月2日	ケース検討、利用者報告書の書き方について	5名
令和5年4月3日	事例検討、網膜色素変性症について	5名
令和5年5月3日	ケース検討、認定調査と長谷川式について	4名
令和5年6月3日	ケース検討	5名

＜集団指導＞

- ・令和4年度松江市介護サービス事業者集団指導（第1回目）：令和5年3月受講
- ・令和4年度松江市介護サービス事業者集団指導（第2回目）：令和5年4月受講

4. ボランティア、福祉体験等受け入れ状況

*この期間での実績はありません。

5. 業務改善計画（BCP）の策定に関わって

令和3年度介護保険法の改正に伴い、当事業所の含む指定介護事業者は、感染症や自然災害等の発生時ににおいて、利用者に対するサービスの提供を継続的に実施する為、また非常時の体制で早朝の業務再開を図るための「業務改善計画（BCP）」を策定し、それに従い必要な措置として、研修や訓練、また計画の修正など平時からの備えを行うよう義務化（令和6年3月31日迄は努力義務）されています。弊社ではこれを受け、令和5年度中の計画策定の官僚を目指し取り組んでいるところです。策定の内容項目、また策定錠の課題は以下の通りです。

○策定内容

①感染症に係る業務継続計画

- a 平時からの備え：体制の整備、感染防止に向けた取組、消毒液や防護用品の確保など
- b 初動対応：感染確認からの対応手順など
- c 感染拡大防止体制の確立：保健所との連携、濃厚接触者への対応、関係所との情報共有など

②災害に係る業務継続計画

- a 平常時の対応：建物や設備の安全対策、必要品の備蓄など
- b 緊急時の対応：対応体制など
- c 地域及び関連機関との連携：避難や救助支援の連携体制など
- d 利用者及び家族との意思確認：サービス利用中の被災時の申し合わせの確認など

③研修について

- a 業務継続計画について職員間で共有
- b 災害に対する知識と備えの理解の励行
- c 感染症予防とまん延防止のための研修の機会

④訓練について

- a 計画に基づく役割分担の確認、実践するケアの演習を行う
- b 年一回以上の定期的開催

○『健笑庵のぎ』における、策定上での課題及び問題点

- ①従業員が少数のため、体制上の役割分担が業務重複する。
- ②また従業員の代替えや緊急補充に限界があり、災害時のケア体制が不十分である。
- ③通所介護の単独サービスのため、施設を利用する支援には限界がある。
- ④災害状況やその程度により、段階的な体制構築が必要となることから策定が複雑多岐に及んでいる。
- ⑤事業規模に応じた実施可能な計画査定が必要である。

6. 地域密着型通所介護事業所『健笑庵』の「在宅介護」の継続的な取り組みについて

弊社、通所介護事業所『健笑庵』は2001年の開設以来、少人数制で通所介護を軸にした「在宅介護」に取り組んできました。高齢者の皆様が可能な限り住み慣れた地域で、ご自宅でご暮らししていくことを第一の目標として、この20数年の間、多くの皆様とご縁をいただき、その皆様から多くの学びと気付きを頂戴いたしました。この経験が、現在の『健笑庵』の基本理念である「在宅介護」の糧であり、根拠となっています。私どもの支援の基本は「個別」への認識です。その利用者への介護の必要性やその内容は単に心身の健康状況によるものだけではなく、それぞれの日常の「暮らし」を取り巻く様々な環境により、その方に必要な介護の内容は個別にあるということです。そして何より重要なのは、ご本人様が「これからの暮らしをどうしたいか」、家族様が「どうするのか」ということです。そして私たち『健笑庵』はそれを可能な限り実現できるための支援が「どうあるべきか」に取り組んでいます。

1) 通所介護の役割と可能性

一般的に通所介護の基本方針は、「利用者が可能な限りそれぞれの居宅でその有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるように機能の維持、向上を目指し、必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行うことにより社会的孤立感の解消や心身機能の維持並びに家族の身体的、精神的負担の軽減を図るもの」とされています。このことから通所介護は本人のみならず家族に対しても重要な役割が求められています。また、関わり方としては、週間計画となることから、一定のタイミングで必要な交流や支援が可能になります。これは暮らしのリズムを構築する上で有効な要素であると考えています。また、『健笑庵』では送迎という特性を生かし、ご家族との連携や必要に応じてご自宅のある地域の皆様との連携も重要な機会であるとして取り組んでいます。

2) 通所介護の利用のタイミング

『健笑庵』では通所介護サービスの利用を検討するタイミングは次のように考えています。

- ①他者と交流したい。
- ②配偶者死亡等による、世帯構成の変化
- ③同居家族の介護負担の軽減策として
- ④食事摂取の状況の変化など体調変化のタイミングなど

3) 「個別支援」のための状況把握の取り組み。

「個別支援」の基本的な視点として、高齢者介護の問題は、本人や家族の努力で未然に防げるものではないということ、本人や家族の責任追及という視点ではないということです。本人を取り巻く社会環境を十分に把握し、そこには様々は要因が重なってその問題を複雑にしています。本人や家族、当事者だからこそ分かりにくい状況もあります。そこで私たち『健笑庵』の役割は、その個人の現状を丁寧に理解していくことにあります。

- ①心身の状況の把握
- ②世帯構成や支援者（親族など）状況の把握
- ③高齢者住宅など利用の把握
- ④本人や家族の思いの把握

7. 報告に対する質問意見および要望

<意見・要望>

○活動報告に関わって

- ・デイサービスに出掛けると自分も良いが、家族も安心する。[利用者]
- ・不満はありません。良い所があってよかった。[利用者]
- ・主人の利用回数が増え、週2回利用が出来て安心しています。[利用者家族]
- ・嫌がらず利用日は待っています。楽しいと言っています。[利用者家族]
- ・「日曜デイサービス」について。行くのが楽しい。家に一人でいてもつまらない。[利用者]
- ・「業務継続計画（BCP）の策定」について、福祉避難所は公民館が担う事にはなっているが、確定はしていない。保健婦、訪問看護の派遣、内服薬の問題などがある。[松江市職員]

- ・「業務継続計画（BCP）」について、色々と聞かせてもらいました。[家族]
- ・今年はより暑いので、どなたも体調には気を付けて欲しい。[松江市職員]

<質問>

- ・Q：コロナ禍で利用者数は減ったか。[知見者]
A：全体的に利用者数は減少したが、一部で地域の元気塾などの活動の場がなくなったことから逆にデイサービスを利用したいというニーズもあった。また、サービス付き高齢者住宅に入居されている利用者はデイサービスなど広く外出の制限を長期にわたり実施されるケースがあった。
- ・Q：コロナが5類に変更になったことで、対応は変わったか。[知見者]
A：基本的な感染対策は変更していない。家族との連携を基本に対応を継続している。活動場面では「日曜デイサービス」など、外出についてはコロナ禍以前の様には行えていないが、少しずつ対策を講じたうえで外出機会を再開している。利用者にとって特別な機会になり、暮らしの励みになってくれると良い。
- ・Q：先日開催された集団指導での「BCP研修」はどうでしたか。[松江市職員]
A：内容的には具体的で分かりやすいと感じた。またその考え方が参考になった。事業所に必要な独自のものを継続計画の策定が必要であると感じた。

※事業所確認欄

☐ 活動報告についての評価を受けることができたか。	○
☐ 要望・助言等受ける機会を設けたか。	○